

あかつき 道徳通信

教授用資料

巻頭コラム 「児童」から「生徒」へ 中学1年生の道徳

横山 利弘（元関西学院大学教授）

実践レポート 問いで深める対話のある道徳科の授業

渋谷 美智子（福島市立北信中学校教諭）

No.7

2018年12月25日

巻頭 コラム

「児童」から「生徒」へ 中学1年生の道徳

元関西学院大学教授 横山 利弘

中学校の入学式は生徒にとっても保護者にとっても、小学校の入学式とは一味違った心改まる節目です。生徒は新しい希望と決意と期待を胸に入学してきます。しかし、入学したての時期は生徒にとっては緊張の連続する日々です。この緊張は学校生活が一変することに起因しています。生徒はまずこの変化への適応をしようとします。級友との新たな人間関係の構築、毎時間異なる気質の専門の先生が教室に来て授業が進められる。その先生方との関係も新たな苦勞であります。多くの先生との関係ができる分、担任の先生との関係が薄くなります。部活に行けば、先輩との人間関係や技量の違いにも苦勞する。また、生徒指導の先生の厳しい指導も始まる。あまりに急激で大きな変化が襲ってくるために不適応状態に陥る生徒も多くなります。いわゆる中1ギャップです。

さて、この時期の道徳の授業ですが、中学生になったからといって急激に道徳性が変化するわけではありません。変化はもう少し後になって表れてきます。入学当初の生徒の道徳性は小学校の6年生と変わりません。ですから、分かりきったことしか入っていない教材で分かりきったことを答えさせられる授業は嫌います。ちょうどよいのは背伸びをすれば分かる程度の教材と発問です。（前号を参考にしてください）

生徒の道徳性に変化が表れるのは2学期になってから

です。入学以来の新しい環境への適応の苦しい経験を経て人間についての理解は急激に広がりと深まりを見せます。したがって道徳の教材も、必然的に長くなります。この長い教材を使つての授業を考えなくてはならなくなるのが中学の教師の課題になります。これが小学校の道徳と中学校の道徳との大きな違いのもとなのです。登場人物の心情理解も、判断の条件も格段にレベルが上がってきます。

こうした長い文章を初めから終わりまで読んでいたのでは生徒同士の考えを交流させることはできません。したがって場合によっては前半の状況説明の部分は教師が説明するだけで済ませる必要が生じることもあります。国語の読解ではありませんので全文を隅から隅まで範読する必要はないのです。道徳の授業では言うまでもないことですが、道徳的問題を考えなければなりません。しかも、最も中心になる大切な部分に時間を十分に取るためにはこういう方法もやむを得ません。そのためには教師自身が前もって教材を分析し、教材の道徳的構造を明らかにしなければなりません。これはかなり難しいことですが、必ず前もってしておかなければならない事です。このために、教師用の指導書や赤刷りを参考にすることも必要です。

さらに中学校になると、教師自身が教材に含まれる道徳的価値についての理解を深めることも不可欠です。このことについては次号でもう一度説明します。

実践レポート 「私の道徳授業」



問いで深める対話のある 道徳科の授業

福島市立北信中学校教諭
渋谷 美智子

はじめに 子どもたちの感性はすばらしい！ 子どもたちは、大切なことはちゃんと分かっている！ しかし、一人で物事を考えるには限りがある。だからこそ、道徳の授業では、「対話」を大切にしている。子どもたちと一緒に考えてみたい問い（中心発問）を立て、他者との対話のもとより、教材との対話、自分自身との対話など、学級の一人ひとりが学級全体で様々なものと「対話」を繰り返していく中で、考えが深まる授業を目指したい。そのために、日頃から安心して語れる学級の雰囲気づくりを大切に、授業の中で子どもの発言をしっかり聞いてあげられるよう心掛けている。子どもたちの思わずぼろりとこぼれた本音をきちんとキャッチできるかどうかは、授業者の度量にかかっているものと肝に銘じている。

加えて、学習指導要領解説の内容をしっかりと読み込み、道徳的価値についての理解を深めるとともに、十分な教材研究を行うこともまた欠かせない。同じ道徳の教材が巡ってくるのは3年に1度。授業は生ものなので、いい授業ができたなあと感じるときもあれば、上手くいかないときもある。しかし、子どもたちにとっては、かけがえのない1回であり、決してやり直しがきかない50分である。だからこそ、しっかり準備をして授業に臨み、子どもたちにとって友達の発言を聞くことが楽しい、考えることが楽しい、道徳の時間が楽しいと思えるような授業づくりをしたいと常々思っている。

教材名 銀色のシャープペンシル

主題名 良心のめざめ

ねらい 内なる良心の声を自覚し、自分を奮い立たせることで、目指す生き方に近づこうとする道徳的实践意欲を培う。

内容項目 よりよく生きる喜び〔中学校D・(22)〕

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。

対象学年：中学校1年生

出典：「中学生の道徳1 自分を見つめる」（廣済堂あかつき）

授業の構想

■主題設定の理由

中学生は、何がよくて何がいけないのかを模索しながら、それでも正しい方向へ向かって進もうとしているように感じる。しかし、自己を否定されることを恐れるあまり、自分の非を認められずに言い逃れをしたり、自己を正当化したりする言動も見られる。本時で使用する教材においては、単に友人である卓也との友情関係を問うことや、卓也に対して謝る、謝らないといった正直さや誠実さの理解に留まるのではなく、人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高さがあり、誇りをもって自分に恥じない生き方を見出していくことについて考えを深めさせていきたい。

人は誰でも悩んだり、自分に自信がもてなかったりするものであり、欠点や弱点のない人間はいない。本教材の主人公も自分を正当化するために嘘をつかざるを得なくなるが、主人公自身が自分の中にある弱さや醜さから目をそらすことなく、揺れ動きながらも弱さを克服し、自分を奮い立たせる。主人公の目指す生き方や誇りある生き方に近づいていく姿に目を向けさせることで、本時のねらいに迫りたい。

■指導にあたっての工夫

この教材では、主人公が卓也からの電話を受けた後、葛藤しながらも自分を奮い立たせることで、誇りある生き方へと方向転換していく心の動きについて、時間を十分にかけ話し合いたい。そのため導入やあらすじ、教材前段部分の確認に時間をかけないよう留意する。

追発問として「このまま黙っていてもいいんじゃないか」や「オリオン座がとてつもなく大きく感じたこと」の理由や意味を問うことで、友情や善悪の判断の問題に留まらず、自分自身の目指す生き方・誇りある生き方に向かう主人公の心に気づかせていきたい。

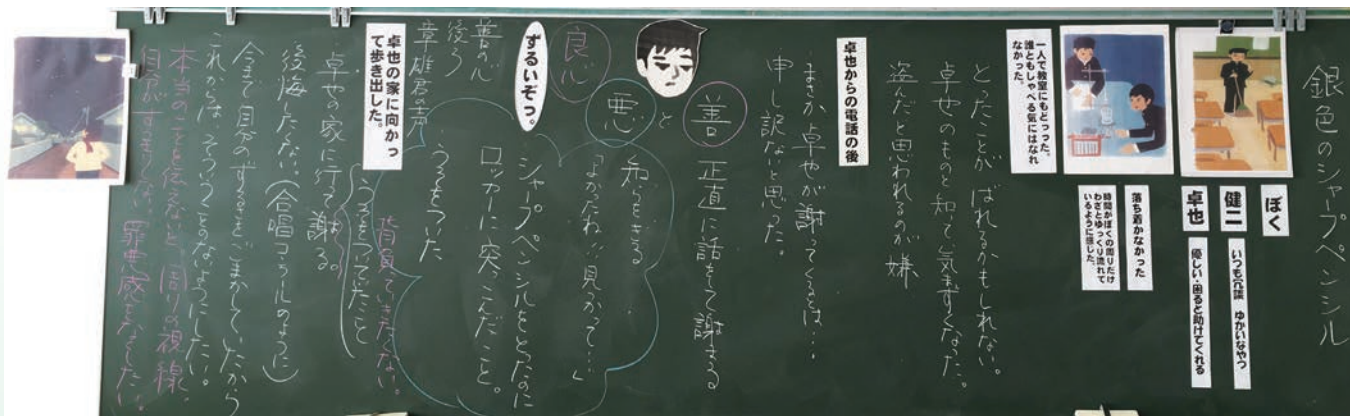
「ずるいぞ」の声は、主人公の内なる善の声から発せられたものであることに子どもたちは気づくと考えられる。終末では「良心」という言葉を提示し、今後の学習につなげていきたい。

心の弱さや醜さをもちながらも、最終的にはその弱さに打ち勝ち自分に恥じない生き方を目指す主人公への自我関与を通して、人は誰しも弱さをもっており完全なものではないが、それを乗り越える強さもち合わせており、素晴らしい存在であるということについて考えを深めさせたい。

教材の内容（あらすじ）

●落ちていた銀色のシャープペンシルを自分の物にしてしまった「ぼく」。ある時、友達の卓也に「そのシャープ、ぼくのじゃ……」と言われて、「ぼく」はとっさに自分で買ったと嘘をついてしまいます。事態の発覚を恐れて、誰もいない教室で、卓也のロッカーにシャープペンシルを返しておいた「ぼく」。卓也から「君のことを疑ってごめん」という謝罪の電話を受け、家を出て、オリオン座の瞬く夜道を卓也の家に向かうのでした。

学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導の留意点
■教材への関心をもつ。 教材を読む。 ■話の内容をつかむ。 ■「とった」と言われて動揺する主人公の心を捉える。 ■卓也からの謝罪の言葉を聞いて、揺れ動きながらも自分の弱さと向き合う主人公の心を考える。 ■自分の弱さに気づき、それを打ち破ろうとする主人公の心を捉える。	○今日は、「銀色のシャープペンシル」というお話から、主人公の生き方を考えてみましょう。 ○登場人物や話のあらすじを確認してみましょう。 ○主人公はなぜ一人で教室に戻ったのでしょうか。 ・盗んだと思われなくなかったから。 ・気まずい雰囲気が嫌だったから。 ・本当のことを言えなかったから。 ○電話の後、「ぼく」は何を考えたのでしょうか。そして何と何の間で揺れ動いていたのでしょうか。 ・卓也が謝ってきたから、びっくりした。 ・自分のずるさが嫌だ。・善と悪。 ・天使と悪魔。・謝るか言わないでいるか。 ○「するいぞ。」とは、何がするいのでしょうか。どこから聞こえたのでしょうか。 ・自分が悪いことをごまかしたこと。 ・自分がしたことから逃げようとしたこと。 ・自分の内なる声。・天の声。・章雄の言葉を思い出した。 ◎卓也の家に向かって歩き出したとき、「ぼく」は、何を考えていたのでしょうか。 ・卓也に謝りたい。 ・自分のずるさが嫌になって心を改めたい。 【問い返し】卓也は、「ぼく」がシャープペンシルをとったことを知らないのだから、このまま黙っていてもいいのではないですか。 ・謝らないとこれまで通り、卓也と付き合えない。 ・自分の嘘やごまかしと決別したい。 ・弱い自分に打ち勝ちたい。 ○オリオン座の光がまぶしいくらい輝き、とてつもなく大きく感じたのはなぜでしょう。 ・「ぼく」を励ますため。・決心を後押ししてくれるため。 ・自分もあの星のようになりたい。	時間をかけないで、範読に入る。 教材を範読する。 発達段階を考慮し、短時間で登場人物の確認や話のあらすじを押さえる。 後半の発問で時間を確保するため、前半の主人公の弱さ・醜さに共感させつつも時間をかけずに押さえたい。 卓也の謝罪を聞き、揺れ動きながらも弱い心と向き合い、それを乗り越え次に向かっていこうとするまでの、主人公の良心と弱い心との戦いを考えさせたい。 「するいぞ」という声が、内なる（良心の）声であることに気づかせ、人間が弱さを克服する強さをもっていることに気づかせたい。 中心発問では、「主人公が謝りに行く」と決意する」という旨の生徒反応が予想される。そこで、「卓也は知らないのだから、このまま黙っていてもいいのではないか」と問い返すことで、主人公の強く誇りある生き方に気づかせていきたい。 オリオン座の輝きについて考えることで、よりよく生きようとする道徳的価値を印象づけたい。
■自分の考えをまとめ、文章化する。 ■説話を聞く。	○今日の「ぼく」に学んだこと、考えたことについて書いてみましょう。 ○「私たちの道徳」P120を範読し、「良心」について説話をする。	「良心」という言葉の理解が不十分なケースがあるため、言葉の意味を説明しておく。



実践を振り返って

■発問やりとり（T：教師、C：子どもの発言）

T：理科の実験の後、一人で戻った「ぼく」。誰としゃべれる気になれなかったのはなぜ？

C：そのことがバレるかもしれないから。

C：卓也のものと知って、気まづくなった。

C：疑いをかけられて盗んだと思われるのが嫌。

T：卓也からの電話の後「ぼく」は何を考えましたか？

C：まさか、卓也が謝ってくるとは……。

C：申し訳ないと思った。

T：「ぼく」の心は、揺れ動いていた。何と何の間で揺れ動いていたの？

C：善と悪。

T：このときの、善って何？ 悪って何？

C：善は、卓也に正直に謝って、悪は、しらを切ること。

C：善は、正直に話すこと。悪は、そのまま知らんぷりするところ。

C：「よかったね～見つかった！」なんてことを言ってしまうのも悪。

T：こんなときに突然「ずるいぞ！」って聞こえてきた。何がずるいの？

C：とったのに、とったことを隠して、ロッカーにシャープペンを突っ込んでおいたこと。

C：しらを切り通そうとするところ。

C：最初のところで、シャープペンシルをポッケに入れてしまったこと。

C：正直に言わない、自分が悪くない、とするところ。

C：嘘をつくこと。

T：この「ずるいぞ！」ってどこから聞こえてきたの？

C：後ろの方から。

T：誰が言ったんだろう？

C：善の心。

C：章雄君の声。昔、「ぼく」に対して言った「ずるいぞ！」っていうのを思い出した。

T：ゆっくり向きを変えると、卓也の家に向かって歩き出した。この後、どうするんだろうね？

C：卓也の家に行って、今までの嘘とかを全部話して謝る。

T：何を考えながら卓也の家に行ったんだろう？

C：合唱コンクールのときのように、後悔したくない。

C：今まで自分をごまかしていたから、これからは、そう

いうことのないようにしたい。

T：卓也は、自分がシャープペンシルをとったことは知らないのだから、謝らなくてもいいんじゃないの？ 謝らなくてもいいんじゃないの、と思う人は？

C：（挙手なし）

T：謝った方がいい、と思う人？

C：（挙手多数）

T：なんで謝らなければいけないの？

C：本当のことを伝えないと、自分がすっきりしない。

T：「自分がすっきりする」ってどういうこと？

C：今までの嘘を言わないと、その嘘が自分の中に残る。それを、自分の中に背負っていきたくない。

C：罪悪感をなくしたい。

T：罪悪感は、あっちゃダメなの？

C：それからの行動が上手くいかない。

C：周りの視線も気になる。

T：周りからの目が気になるの？ でも、周りにはバレてないでしょ？ 自分しか知らないでしょ？

C：やったことは自分が知っているから、自分に嘘をつきたくない。

C：これまでの自分にけりをつけたい。

T：東の空にオリオン座が見えました。なんで今日は、大きく感じたの？

C：心が暗いから。

C：これから覚悟して謝りに行くから、それに対してオリオン座ががんばれ！ って言ってくれている。

T：主人公から学んだことは何ですか。書いてみて下さい。
最後の説話では、「私たちの道徳」から、「良心」という言葉を押さえた。「『ずるいぞ！』っていう声は、この『良心』から聞こえてきたのかもしれないね……」という話をして授業を終えた。

■生徒の感想より

- ・ずるいことをしてしまうと自分がどんどん苦しくなるから、ずるいことはダメだと感じた。自分に正直に生きるのは難しいと思うけれど、少しでもそうなれたらいい。(A)
- ・欠点や弱点をなくして生きることができないので、良心の声に耳を傾けて、まっすぐに生きたい。(B)

■おわりに

約 25 分間の生徒とのやり取りの記録である。授業内容を振り返ってみると、もっと子どもたちの発言に耳を傾け、問い返しをして、その言葉の奥にある思いを拾い上げたいと感じた。普段の教科の学習では発言が見られない子どもの発言が印象に残っている。そして、授業後に見せたその子の笑顔が。

あかつき道徳通信 No.7 教授用資料

発行 廣済堂あかつき株式会社

本資料の内容についてのお問い合わせは、小社編集部（TEL：03-6435-6690）までお願いします。

 廣済堂あかつき

〒176-0021 東京都練馬区貫井 4-1-11
TEL：03-3577-8966 FAX：03-3577-8967

バックナンバーは、下記 HP で
ご覧いただけます。

<http://www.kosaidoakatsuki.jp>